

答申に向けて

(第2回大田区消防団運営委員会)

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

大田区消防団運営委員会

はじめに

第1回消防団運営委員会より

前回の答申概要についての説明に続き、今回の諮問事項に係る課題とその検討の方向性を示し、これに向けて大田区内の全消防団員にアンケート調査を実施することについて了承が得られました。

また、基礎資料として、消防団の現行の研修や現有資機材等を紹介しました。

第2回消防団運営委員会について

本会においては、検討の方向性として示された事項について、アンケート結果等をもとに検討を加え、最終答申に向けた意見集約を行います。

課題と検討の方向性について

課題Ⅰ 地域防災の要である消防団として、変化及び成長をしていくことが重要である。	
検討事項① 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、大田区の地域特性や消防団の現況を踏まえ検討	
検討の方向性	1 団活動によりやりがいを持てる方策
	・ やりがいを感じる活動とやりがいを持てる方策の検討
	2 資格取得講座の拡充等
	・ 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等の検討 ・ 多様な職業からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討
3 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討	
・ 地域の企業や官公庁等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘	
検討事項② 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、大田区の地域特性や消防団の現況を踏まえ検討	
検討の方向性	1 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方
	・ MCA無線に代わる無線機への更新や無線関係機器の統合、配置などの検討
	2 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステム
	・ 現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入などの検討
3 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等	
・ 環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上や負担軽減の検討	
課題Ⅱ 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。	
検討事項① 消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討	
検討の方向性	1 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容
	・ 具体的訓練目標や到達状況の確認の実施の検討 ・ 団員の活動技術や実績に応じた識別方策の検討
	2 経験豊富な中核となる団員による訓練指導体制等
	・ 長年の消防団活動で培った知識や技術を実践的訓練指導への反映の検討 ・ 訓練指導者の研修や体制などの検討
3 操法訓練と実働訓練の実施の目安	
4 訓練効果の確認方策	
検討事項② 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討	
検討の方向性	1 積極的な災害活動の定着化
	・ 消防団員が災害活動に従事する意識向上のための方策について検討
	2 大田区等と連携した普及方法
	・ 大田区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策の検討
3 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくり	
・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策の検討 ・ 消防団員が行う総合防災教育等を通じた、児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策の検討	

課題 I

地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

検討事項①

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、大田区の地域特性や消防団の現況を踏まえ検討

検討の方向性

1 団活動でやりがいを持てる方策

- ・ やりがいを感じる活動とやりがいを持てる方策の検討

2 資格取得講座の拡充等

- ・ 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等の検討
- ・ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討

3 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討

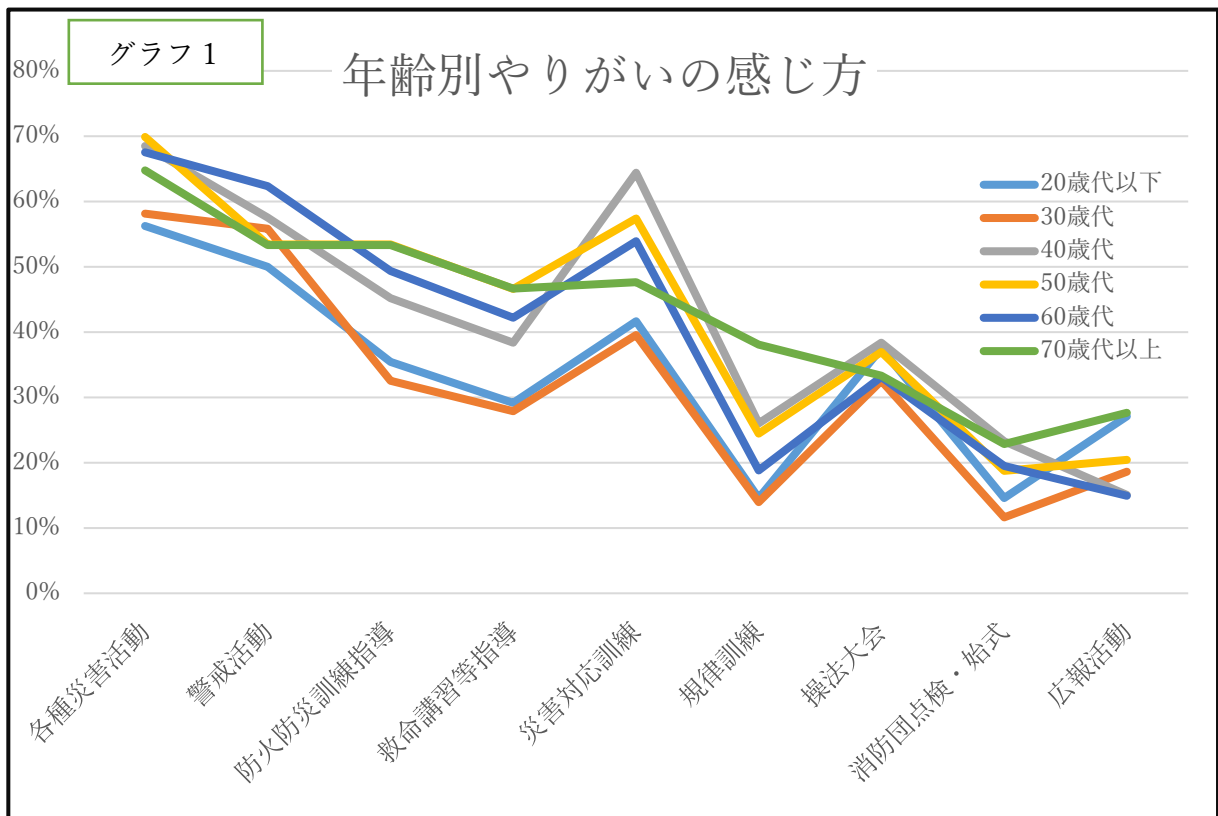
- ・ 地域の企業や官公庁等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘

【アンケート2 - Q1】

あなたが消防団活動で、やりがいを感じる活動を全て回答してください。

【複数回答可】

内 容	人 数	割合 (%)
・ 各種災害活動	3 9 8	6 6 . 2
・ 警戒活動（祭事等）	3 3 8	5 6 . 2
・ 災害対応訓練	3 1 9	5 3 . 1
・ 防火防災訓練指導	2 9 1	4 8 . 4
・ 救命講習等指導	2 5 2	4 1 . 9
・ 操法大会	2 1 1	3 5 . 1
・ 規律訓練	1 4 5	2 4 . 1
・ 広報活動	1 2 0	2 0 . 0
・ 消防団点検・始め式	1 1 6	1 9 . 3
・ その他	5	0 . 8



グラフ1は、【アンケート2- Q1】結果を年齢別に分析したものである。全体的に高年齢なほどやりがいを多く感じているようだが、特に年齢による特徴が見られる項目は、年齢の高い団員ほど防火防災訓練指導、救命講習等指導など、対人的に活躍できる項目にやりがいを感じている。一方、災害対応訓練を含め、若年層がやりがいを感ずる割合が全体的に少ないことがわかる。災害対応訓練にやりがいを感ずる世代が40代、50代といった、消防団活動の中心となる世代で多いことも分かる。

【アンケート2- Q3】

資格取得講座等で、受講者数の拡充など充実してほしいものを全て回答してください。【複数回答可】

内 容	人 数	割合 (%)
・ 上級救命講習	229	38.1
・ 応急手当指導員講習	218	36.3
・ 応急手当普及員講習	171	28.5
・ 普通救命講習	147	24.5
・ 可搬ポンプ整備資格者特例講習	145	24.1
・ 危険予知訓練研修	133	22.1
・ 二級小型船舶操縦士講習	128	21.3
・ 第三級陸上特殊無線技士要請講習	101	16.8
・ 惨事ストレス対策団員養成講座	101	16.8
・ 機関科研修（消防学校）	96	16.0
・ 手話技能講習	92	15.3
・ 英会話技能講習	69	11.5
・ ハラスメント防止講習	69	11.5
・ 健康セミナー	61	10.1
・ 警防科研修（消防学校）	59	9.8
・ 幹部研修（消防学校）	51	8.5
・ 女性消防団員研修（消防学校）	46	7.7

【アンケート2- Q4】

資格取得講座、研修等で、行ってほしいものを回答してください。

【自由記載】

・ 防災士養成講習【52】
・ 重機操作【49】
・ 危険物関係講習【35】
・ ドローン【17】
・ 災害時対応訓練【11】
・ 応急手当等救急関係講習【8】
・ 船舶関係講習【7】
・ 消防設備関係講習、可搬ポンプ操作講習、緊急走行【5】
・ 防火管理者講習【4】
・ 無線関係講習【3】
・ タブレット・PC関係、英語を使用した訓練や講習等 運転免許関係（大特、バイク等）【2】
・ チェーンソー講習、手話講習、ボランティア講習、管内の地域特性 ペットレスキュー、空港内制限区域内での講習、危険予知【1】

※【 】は回答者数

【アンケート2- Q5】

あなたが職業やこれまでの経験から、他の団員にできる講話や講習があれば回答してください。【自由記載】

- ・普通救命講習、救急処置、CPR等【21】
- ・資器材（チェーンソー等）取り扱い【17】
- ・可搬ポンプ、積載車運用【13】
- ・被災地での経験【12】
- ・重機操作（解体現場等）【5】
- ・消防設備士関係（取扱い等）【4】
- ・災害活動経験、語学（英語、中国語等）【3】
- ・手話、危険物取扱者講習等、PC関係【2】
- ・防災訓練でのガイドヘルパー、倒壊危険建物の判断等、自衛消防関係、電気火災関係、運転操作（大型）、船舶関係、柔道、建物の構造等、規律訓練、防災クッキング、安全管理、消防団員としての心構え、結索、ラジオ体操指導、メンタルヘルス関連（PFA等）、音響関係、ハラスメント関係、危険予知、手芸関係、ドローン操作、チームビルディングに関する指導【1】

※【 】は回答者数

【アンケート3- Q1】

教育訓練で必要と思うものを全て回答してください。【複数回答可】

内 容	人 数	割合 (%)
抜粋		
教育訓練を指導できる消防団員の育成	245	40.8
消防団員が他の団員を教育訓練するためのマニュアルの整備	228	37.9

アンケートによると、消防団員がやりがいを感じる活動として挙げられている活動は、「各種災害活動」に続いて「警戒活動（祭事等）」「災害対応訓練」「防火防災訓練指導」「救命講習等指導」「操法大会」となっている。これらはすべて、地域の安全や地域の人々に対し直接的に貢献できる活動であることから、地域との結びつきの大きさがうかがえる。

このうち「警戒活動（祭事等）」については、地域からの協力要請が多く、地域の安全・安心に大きく貢献しているところである。

参考資料で示した総務省消防庁によるアンケート結果によれば、消防団に入団してよかったこととして、半数以上の団員が「地域とのつながりが増えた」点を挙げ、「地域に貢献できていることの満足感」の回答も多かった。

参考資料 令和6年2月6日総務省消防庁報道資料「消防団の更なる充実に向けた総務大臣書簡」 (<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/syokannHP.pdf>)

消防団員の成長につながる資格取得について見てみると、消防団員が拡充を望む講習として、上位4つがすべて救急関係の資格があげられている。救急に対する意識の高さが見られる。

救急以外の資格については、二級小型船舶操縦士や第三級陸上特殊無線技士などの国家資格、機関関係の講習のほか、危険予知訓練研修の希望も多く、ほかに惨事ストレスや手話、英会話、ハラスメント防止講習の希望が少なくない。

防災士養成講習や危険物関係講習、重機操作の新設についても希望者が多く、ドローン活用の必要性を考えている団員も一定数見られる。消防団員として実用性の高い資格があげられている。

また、消防団員が、講話や研修ができると答えた項目としても、救急関係が多くあげられており、消防団員にとって、特に救急分野が身近になっていることがわかる。

救急以外では、ポンプ運用や資器材の取り扱い、重機操作をあげた団員もあり、災害現場での実用性が高く、機能別団員として期待する、あるいは機能別団員の養成者として期待することができる。

これらを庁、または団本部及び団事務局等で把握し、講習会あるいは勉強会等として企画することにより、消防団活動の活性化に結び付けることが可能だと考えられる。

また、「教育訓練を指導できる団員」を育成する必要性を訴える回答が40%以上あり、そのためのマニュアル整備の必要性も回答されている。

これらとは別に、広く地域から学ぶ手段も検討すべきである。

まず、大田区に情報源を求めると、毎月1日、11日、21日に発行される大田区報や、各特別出張所で配布されている各種情報誌等には、各種講習・講座の情報が掲載されており、地域力推進会議でも配布されていることから、官公庁との連携の入口として活用できる。

大田区では、観光ガイド（産業経済部観光課）など地元企業・商店等を知る資料も多彩である。

さらに、消防団員の所属する各自治会・町会には、様々な職業、業種の方が参加しており、消防署の協働団体に参加している企業も多種多様である。

防災分野に特に明るい、熱心な会員もおり、講習・講座の形式にとらわれず、専門知識や経験談を教養してもらうことは、相互理解の大きな一歩になると思われる。

また、各消防団で視察研修を実施しているが、「視察先」という視点から管内を見渡してみることも、地域から教養を得るうえでの参考になる。

《答申に向けて》

以上のことから、「地域とのつながり・結びつき」をやりがいと感じている団員が多く、これを実感できるような活動を増やしていくことが、団員のやりがいに直結すると考えられる。

こうした活動を充実させるために、資格講習の充実強化が望まれている。

消防団員にはやる気があり、希望がある。

消防団活動を活性化させ、継続へのモチベーションの増幅のために、消防団員のいろいろな能力(知識・技術)向上のための講習、研修の充実に向けた予算確保を提言したい。

特に、団員相互の教養を積極的に導入することで、「教える」というモチベーションを増幅すれば、その効果はさらに高いものとなる。そのために、講師可能な団員とその教養内容の収集(データベース化)を進めることも提言する。

あわせて、これらを動画として e-ラーニングで視聴できるようにライブラリー化も提言する。

また、消防団の存する地域にも、消防団員を成長させてくれる要素は数多く存在することから、これらとの「教養」の視点での交流を図っていくことを提言したい。

課題 I

地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

検討事項②

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討

検討の方向性

1 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方

- ・ M C A 無線に代わる無線機への更新や無線関係機器の統合、配置などの検討

2 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステム

- ・ 現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入などの検討

3 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等

- ・ 環境に配慮した装備資器材の検討や仕様変更による利便性の向上や負担軽減の検討

【アンケート4- Q1】

現在の消防団専用タブレットに導入してほしい機能を回答してください。

【自由記載】

- ・ 個人のスマホと連携できる機能（スケジュール、ライン、メール等）【72】
- ・ 出動記録の管理【38】
- ・ 報酬等のデジタル明細【15】
- ・ 消防団専用タブレットの存在を知らない。わからない。【7】
- ・ 訓練動画、教養動画（e-learning、研修、講座等）の視聴できる機能【5】
- ・ 消火栓、防火水槽が確認できるマップ【4】
- ・ 事務局からの連絡や通知等が確認できる機能（災害時含む）【4】
- ・ 災害時の所在、被害状況等が確認できるマップ【3】
- ・ 出火報時の連絡を受けられる機能【3】
- ・ A E D の設置場所が確認できるマップ【2】
- ・ 消火器の設置場所が確認できるマップ【2】
- ・ 給貸与品等を事務局へ申請できる機能【1】
- ・ 消防団の資器材等管理できる機能【1】
- ・ 老眼アプリ【1】

※【 】は回答者数

【アンケート4- Q2】

今後、導入してほしい資器材、改善してほしい資器材を回答してください。

【自由記載】

- ・ガンタイプノズル【64】
- ・無線機の統合、団員個人への無線機（インカム等含む）の導入【40】
- ・電動アシスト付可搬ポンプ台車【21】
- ・可搬ポンプ、積載車改良（軽量化、4サイクル、資器材スペース確保等）【13】
- ・ドローン【13】
- ・無線機の改良（アンテナ、イヤホン等）、バイク（オートバイ）【6】
- ・自動ホース巻取り機、各分団の資器材（可搬ポンプ等）を統一してほしい【5】
- ・油圧ジャッキ等、50mmホース、電動アシスト付自転車、空調ベスト【4】
- ・発動発電機・投光器の改良、チェーンソー【4】
- ・ライト改良（ヘッド・ハンド兼用、LED等）、防火服の改良【3】
- ・大規模災害時資器材（炊出し、処置等）【3】
- ・電動アシスト付水槽【1】
- ・タイヤブリッジ、梯子、フローティングストレーナ、スタンドパイプ【2】
- ・無反動管そう、吸水フロート【2】
- ・リヤカー（アルミ製）、ホースブリッジ、電動ハンマー、ホースバッグ【1】
- ・ホース修理（穴あき等）ができる資器材、暖房器具の拡充、水槽の改良【1】
- ・電動トライク（ポンプ積載）、チャップス、ゴムボート、充電池【1】
- ・災害時にり災状況、交通状況がわかるモニター等【1】
- ・格納庫の鍵を顔認証、指紋認証に変更、分団本部に給湯器設置【1】
- ・完全防水の消防団専用タブレット【1】
- ・ホース内の水を排水するための圧縮空気を送る装備とポンペ【1】
- ・格納庫にコンセントを付けてほしい【1】

※【 】は回答者数

【アンケート4- Q3】

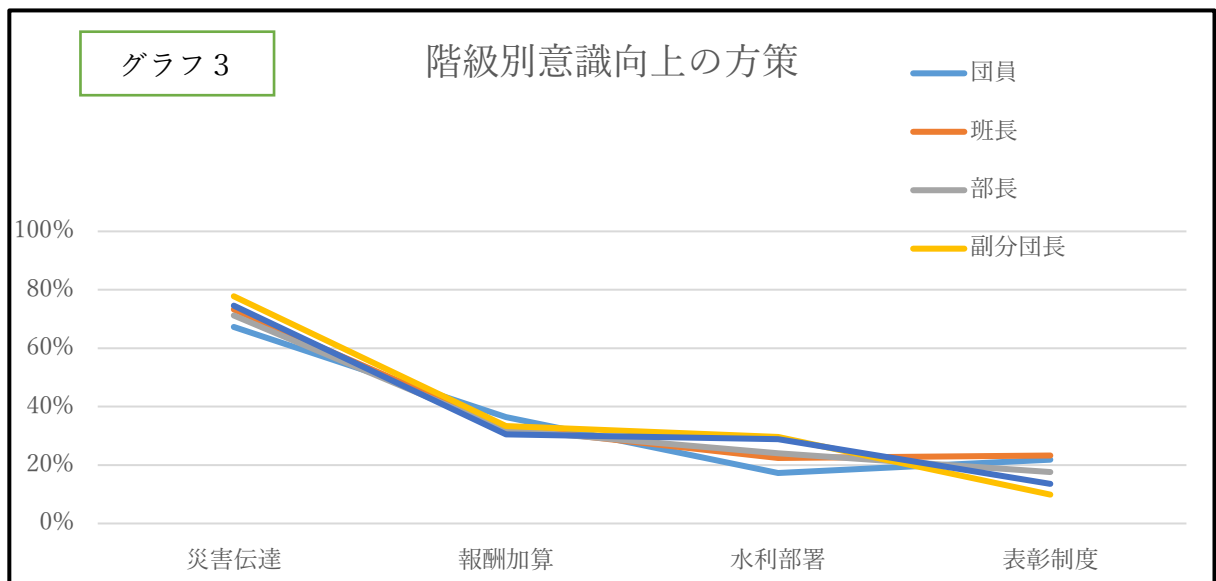
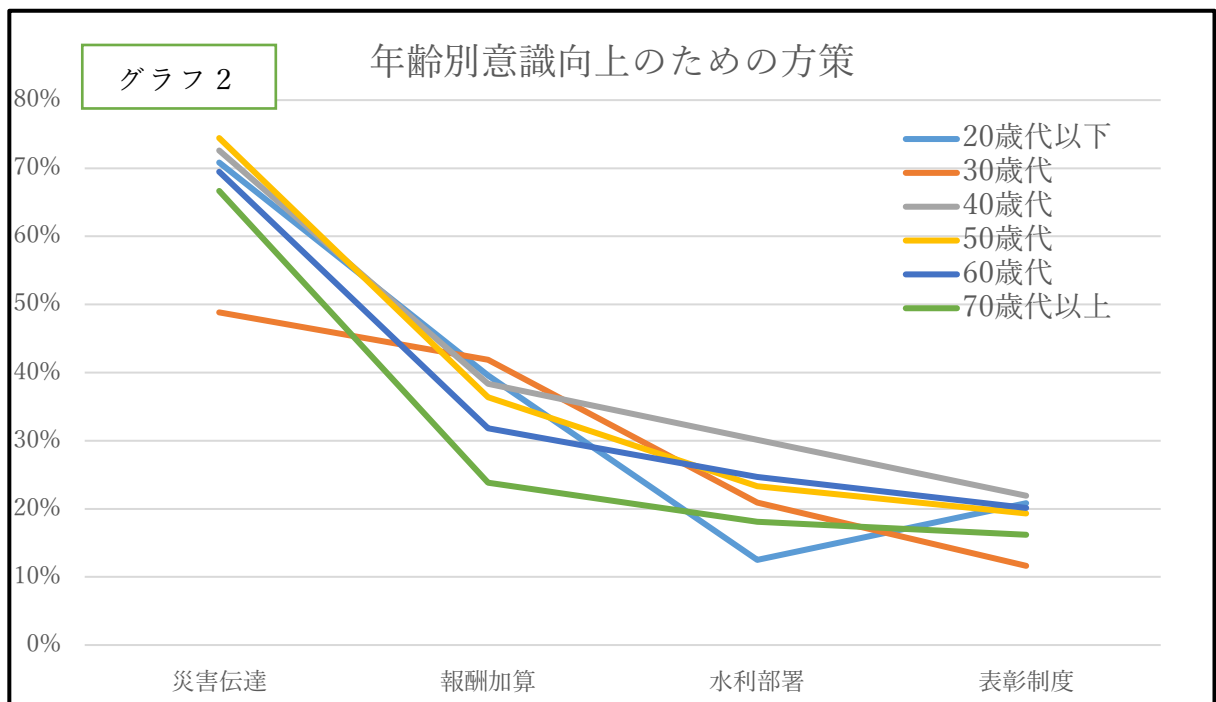
特別区内消防団の意見として、「手引き可搬ポンプ台車の軽量化、コンパクト化、電動化」が示されています。手引き可搬ポンプ台車を改良すると、現行の「特別区消防団可搬ポンプ操法」を変更する必要がありますが、最も近い意見を1つ回答してください。

内 容	人 数	割合(%)
改良後の台車にあわせて可搬ポンプ操法を改正すればよい	358	59.6
台車の仕様に影響を受けないよう、都大会においても、全国大会で行っている、台車を使用しない可搬ポンプ操法で行えばよい	94	15.6
現行の可搬ポンプ操法に影響がないよう、一部、改良前の台車を残せるよう、改良台車の配置を制限すればよい	50	8.3
可搬ポンプ操法に影響がでるから、改良はしない方がよい	43	7.2
無回答	56	9.3

【アンケート4- Q4】

消防団員が災害活動に従事する意識を更に向上させる方策で有効だと思うものを全て回答してください。【複数回答可】

内 容	人 数	割合(%)
出火報等の災害伝達を、より迅速、確実に行うシステムの導入	4 2 9	7 1 . 4
活動内容に応じた費用弁償の支給や、年額報酬への加算制度の導入	2 0 3	3 3 . 8
出火報での出場における、可搬ポンプでの水利部署を必須化	1 3 5	2 2 . 5
出場回数及び従事回数に応じた表彰制度の導入	1 1 3	1 8 . 8
その他	1 8	3 . 0
《その他》 ・ 詰所設置【1】 ・ 消防無線受令機を全団員に配る【1】 ・ 災害出場に慣れるため、先輩が後輩をサポートする体制の整備【1】 ・ 出火報の結果（鎮火報等）連絡【1】 ・ 災害保険への加入【1】 ・ 本人の消防団であるという自覚をもつこと【1】 ・ 通常の連絡伝達を確実に行うシステムの導入【1】 ・ 出場の回数等によって退職報償金の減額【1】 ・ 定期的に災害の映像をみたり、VR防災体験車に乗車する【1】 ・ 分団内のコミュニケーションと他分団との連携【1】 ・ 出火報の連絡時にメール等で地図を添付するシステムの導入【1】 ※【 】は回答者数		



意識向上のための方策を、グラフ 2 で年齢別に、グラフ 3 で階級別に見たところ、階級別ではほとんど差異がないが、年齢別では差が見られた。災害伝達の改善が必要だと考えていることがわかる。すなわち、現在の伝達方法である緊急伝達システムや電話連絡が必ずしも満足のものではないということであり、改良又はほかの手段の活用を検討する必要があるということである。

報酬加算については、70歳代の割合が低い一方、30歳代で高い割合を見せていることが特徴的である。

災害活動に必要な資器材についての消防団員の意識から、活動の充実について検討する。

消防団員が最も欲している資器材はガンタイプノズルだった。ガンタイプノズルは、放水活動の負担が軽減されるという特徴がある。過去に、50mmホースおよび媒介金具とともに、一部の消防団に試験的に配置されたことがある。ほかに、ホースバッグやフローティングストレナなど、配置が進んでいる資器材にも希望が寄せられている。

無線機については、配置されている団員と配置されていない団員がおり、配置されている者にとっては種類が多く、一人で何機も持たなければならないという現実があり、逆に持たない立場の者は「全員に無線機・インカムを配布してもらいたい」との希望もあることから、統廃合と増強配置についての検討が必要である。

タブレット端末については、アンケートにおいて、操作方法の教養や機能の追加について要望があげられているが、現在でもLINE WORKSアプリにより可能な機能がほとんどであり、端末が配置されても十分に活用されていない実情が垣間見られることから、今後、事務局からの更なる指導・教養が必要である。

手引き可搬ポンプ台車については、軽量化のために仕様変更を行うと操法の変更が必要となることについて、軽量化を優先する考えが圧倒的に多いものの、操法を優先するために改良しないほうがよいという考えの団員も一定数見られる。

《答申に向けて》

資器材の改善、新規導入については、現場活動における情報共有ツールとしての無線機は、操作がより簡易で便利になるように、機能と台数を一つにまとめることを、また、コミュニケーションツールとして台数を多く配置するよう提言する。

令和4年度から導入されているタブレット端末については、タブレットを親機、個人の所有するスマートフォンを子機として、新たな災害伝達や学習(e-ラーニング)、出勤記録の管理、報酬等のデジタル明細等、更なる利便性の追求と、易操作性を提言したい。

タブレット端末のような新しい機器が普及するためには、それに慣れることが有効であり、そのためには台数の増強、使用機会の増加、教養の充実が必要である。

可搬ポンプの台車については、高齢化が進む現状では、現行の手引き式は負担が大きい。電動アシスト付き可搬ポンプ台車の導入などについて、負担軽減のメリットを追求し、引き続き提言するとともに、操法大会との関係についても、今回のアンケート結果から問題提起し、今後の検討を提言する。

課題Ⅱ

活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である

検討事項①

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討

検討の方向性

1 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容

- 具体的訓練目標や到達状況の確認の実施の検討
- 団員の活動技術や実績に応じた識別方策の検討

2 経験豊富な中核となる団員による訓練指導体制等の検討

- 長年の消防団活動で培った知識や技術を実戦的訓練指導への反映の検討
- 訓練指導者の研修や体制などの検討

3 操法訓練と実働訓練の実施の目安

4 訓練成果の確認方策

アンケート3-【Q1】

教育訓練で必要と思うものを全て回答してください。【複数回答可】

内 容	人 数	割合(%)
各任務班に応じた、具体的な訓練の到達目標の提示	2 9 8	4 9 . 6
可搬ポンプ操法訓練（操法大会）での、基本的な消防活動技術の習得	2 7 4	4 5 . 6
教育訓練を指導できる消防団員の育成	2 4 5	4 0 . 8
消防団員が他の団員を教育訓練するためのマニュアルの整備	2 2 8	3 7 . 9
消防署、方面訓練場、消防学校などの教育訓練場所の開放	1 6 4	2 7 . 3
訓練の到達状況を管理できるシステム	1 4 8	2 4 . 6
訓練の到達状況を識別できる標示（ワッペン、ヘルメットへの表示等）	1 1 6	1 9 . 3
上位の階級への補職時に、階級に応じた訓練の到達を条件化	1 1 4	1 9 . 0
訓練の到達状況を確認する操法大会以外（救助、救命など）の審査会を実施	1 0 0	1 6 . 6
その他	1 5	2 . 5

【《その他》】

- ・災害現場での訓練（情報収集、想定訓練等）【5】
- ・国民保護消防として避難誘導が消防の任務として新たに規定された内容【1】
- ・放水訓練（防火水槽以外からの送水、2口放水等）【1】
- ・e-learningの活用強化【1】
- ・活動に伴う勉強会の実施【1】
- ・被服の着用方法等の教養（新入団員向け）【1】

※【 】は回答者数

【アンケート2- Q1】

あなたが消防団活動で、やりがいを感じる活動を全て回答してください。【複数回答可】

内 容	人 数	割合 (%)
抜粋		
・ 操法大会	2 1 1	3 5 . 1

【アンケート5】

その他、意見がありましたらお聞かせください【自由記載】

- ・ 操法大会の廃止検討（より実践に即した訓練を強化）、操法大会への不満【13】

※【 】は回答者数

本アンケートから、消防団員は、自分たちの活動技術を向上させ、その到達度を、相互に確認できることを望んでいることが分かる。

経験の長短、多寡に関わらず、ほぼ半数の人数が「具体的な訓練の到達目標の提示」が必要と回答している。また到達状況を識別できる標示が望まれている。

技術の確認方法は、「補職時の確認」や「審査会の実施」により到達状況を確認し、管理方法はシステムでそれを管理することが必要である。

技術の習得は、本アンケートの結果からは、操法訓練を通じて習得するべき、と考えている消防団員が多い。

また、前述のとおり、団員を指導できる団員の育成やそのためのマニュアルの整備など、消防団としての自律を志向する意思が感じられる。

一方、訓練の実施場所については、消防署や方面訓練場、消防学校の活用を必要と考える回答が4分の1以上ある。今後もこれらの施設の積極的活用を推進する必要があるが、各団で訓練場所探しに苦慮している実態は検討の必要が大きい。

操法大会については、課題1、検討事項①および②でも触れているが、35.1%の団員が「やりがいを感じる」と回答している一方、台車の負担軽減との関係でも賛否両論あり、自由回答では「廃止の検討」や「操法大会への不満」を記載した回答がみられた。

操法訓練は、実災害に活かせるとの認識がある一方で、「操法大会が入団の妨げになっている」や「操法大会に時間を使うよりも、全員がポンプ操作をできるように訓練すべきである」との回答もある。

《答申に向けて》

以上のことから、消防団として自分たちで技術を習得し、その到達度を測定し、そのレベルを認識したいという、積極的な意思に基づき、訓練のための場所の確保も含めて提言する。

訓練マニュアルについては、東京消防庁防災部消防団課から、火災対応訓練マニュアルが発行されているので、このマニュアルの更なる活用を、また、現状において操法大会が一大イベントとして実施されている実態とその意義から、操法訓練の場を活用した災害活動技術向上のための訓練の実施を、各消防団に働きかけていくとともに、訓練実施場所の確保を、東京都として支援するよう答申に盛り込んでいく。

そして、その技術の確認方法の確立と、そのレベルの明示(見える化)を、消防団員のモチベーションの維持・向上および団員相互の認知の方法として確立するよう提言する。

課題Ⅱ

活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

検討事項②

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討

検討の方向性

1 積極的な災害活動の定着化

- ・ 消防団員が災害活動に従事する意識向上のための方策について検討

2 大田区等と連携した普及方法

- ・ 大田区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策の検討

3 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくり

- ・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解方策促進検討
- ・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策の検討

消防団と自治会・町会は、地域住民の立場から、相互に協力する関係が密接であるが、事業所と連携した認知度向上方策も、推進していく必要がある。地域の事業所とは、まさに「地域の防火防災」という目的を共有する者同士であることから、協同事業の実施や、団員募集、協力事業所への登録等を働きかけることで、一体感をもって各事業を推進していく必要がある。

地域の行事における消防団の位置づけを見ると、消防団は、地域行事においては、多くのイベントにおいて警戒活動で貢献している。年末警戒はもとより、町会の祭りや盆踊り、寺社の祭礼等における消防団の活躍は、地域との関係づくりにおいて、最も大きく重要な活動といえる。アンケートでも、団員がやりがいを感じる活動としても災害活動に次いで多くの団員があげている。【アンケート2 - Q1】

このように地域の行事における消防団の役割、期待は大きく、相互理解・協力の実情をよく表している。

一方、消防団の行事に対する一般の地域住民の参加について見てみると、消防団の行事は、お祭りのような一般参加型ではないため、わざわざ参加、見学に来る住民は多くはない。消防団合同点検は比較的広い会場で一般住民も見学しやすいが、操法大会や始式は、会場の都合上、見学しづらいことが原因である。

これらを、もっと多くの住民に披露できたら、消防団が住民にとって、より身近な存在になっていくと思われる。

児童・生徒との関係について見ると、保育園・小中学校での防災訓練や、応急手当指導に、消防団単独であるいは消防署と共同で指導に当たり、また働く

消防の写生会に車両で参加するなど、積極的な理解促進が図られている。

また、消防の活動、車両などの装備に興味を持つ子供は多く、その意味でも、児童・生徒との関係は、すこぶる良好であると言える。

消防団の装備についても、児童・生徒が喜ぶようなデザインを意識すれば、地域の児童・生徒への親しみは、より深まることが期待される。

また、PTAなどの学校の保護者団体、運動会などの学校行事に積極的に働きかけを行い、保護者の入団が促進されれば、同時に児童・生徒への理解促進にもつながる。

《答申に向けて》

操法大会などの消防団行事を、一般の地域住民にも見学しやすい会場で実施できるよう、広く協力を求めるよう提言したい。「消防団を見てもらう」機会を増やすことが必要である。

さらに児童・生徒は、将来の消防団員としての期待も大きい。消防団の装備について、児童・生徒が興味を持つようなデザインに配慮するとともに、学校行事への参画や保護者団体への働きかけを、教育庁等へ依頼するように提言したい。